

亡き娘と経験した小宮山洋子さんの講演会

5月23日

島本 禎子

会場に小宮山洋子さんがおられ、色鮮やかな大輪の花が飾られているような華やいだ雰囲気があった。こうした方だからこそ NHK アナウンサー、解説委員、国会議員、厚生労働省大臣と、言葉は的確ではないかもしれないが出世の階段を、本来の能力を芯として努力をし、しかし余裕をもって上がっていらしたことを改めて納得。

そしてこの晩、小宮山さんのお話が聞けたことは単純に心からの喜びであったと同時に私には個人的な深い思い出の蘇った講演会となった。

解説委員時代の小宮山さんの講演を今は亡き娘と都庁で聴いたことがあった。高校入学後間もない頃から社会生活脱線状態でいた娘がたくさんの人々のいる講堂に入り壇上の人のお話を聞くこと自体が奇跡的であった。また、こうしたことが出来たのは今思うと娘には初めてであり、かつ最後であった、とも言える。

その時のテーマは「都市の環境と緑化について」と記憶する。美しい声でもわかりやすい語り口で話してくださって、内心、娘がきちんと最後まで耐えて聞いていただけるかどうか心配であったがそれは杞憂に終わった。

私と同様に小宮山さんという方すべてに感銘を受けた風で、特にお話をしながら途切れないようにコップの水をリズムに乗せて飲まれて喉を潤され講演を続けたその仕草を非常に気に入ったのも母子で同じ。帰り道々講演の内容のどうこうよりも壇上の小宮山さんそのものを褒め称えたものだった。

またそれ以後しばらくはその日を思い出しては2人でコップを使って小宮山さんの所作の真似をしながら楽しい会話をすることが出来たこと、まだ娘の他界から3年になっていないせいか気を許すとそんなことが思い出され、目の前がかすんでしまった。

報道していた小宮山さんが報道される側になり、また野党の立場から与党となり、しかも厚生労働省大臣という国政の重要な部分を握る立場に上がった経験からのお話はこの日の講演だけでは時間が足りないものであった。準備された資料をなめらかな口調で進むスピードはアナウンサーではなく国会答弁で政治家として鍛えられた小宮山さんの姿であることも明確であった。

小宮山さんの子どもの問題、つなげて女性労働の問題を大切にする一貫した姿勢は非常に共感もてた。在任中に成果をあげたこともたくさん述べられた。しかし日本独特の政治のからくりでその対策が遅々として効を奏していないわ

が国の現状も大臣であったからこそ小宮山さん自身が実感できたことが、その激務の日々や知力を結集しての工夫改善なども様々な例と共に説明された。

日頃一貫性の無い政策ばかりでかつ多くの政策が尻切れトンボのようで一国民として常に不安の私である。この方こそと思える人が政界に入ったと思っても年数が長くなるにつれて日本の政治家らしくなってくる。言葉使いが形式的であいまいになる。庶民の声が聞こえなくなってくる、更に政局がまずは第一という姿勢。こうした疑問に対する直接的な内容はきけなかったが、小宮山さんのお話から、政治の仕組み体制そのものから来る激務、こなすべき仕事量の多さが尋常でないことはこの晩、素直に理解が出来た。(全部の議員が同じような類での激務とはいえないだろうが・・)

大臣であられた小宮山さんに「こころの健康政策構想会議で全国で72万人あまりの署名を集め日本に“こころの健康を推進する基本法を”」とその活動を共にしている家族会の有志数名と大臣室を訪問させていただいたことがあった。このときの20分程の面会時間も小宮山さんにとっては如何に大切な日程の中、搾り出して作ってくださったものであったかの認識を新たに強くした。厚生労働大臣は1人では無理！ まさしくそうである。

いまひとつ私が解せないでいる政治家と官僚との関係。有能な官僚を効率よく働いてもらって政治家との連携で政策を前に進めるための機能がより円滑に本質的に必要なことのために作動してもらいたい。

政治で決定し動くのを待ってられない、と地方自治体や民間での活動にむしろ好ましい芽生えがあるのは、日本では多くの場合、これまでもいろんな状況で起こっている現象であると思う。

小宮山さんが子ども問題は勿論のことであるが今後は政界の裏側を知る立場を生かしてこうした部分を改善するべく声を上げて言っていただきたい。フリージャーナリストとして生まれ変わった小宮山さん、昔より何倍もの経験と知識を持たれ社会にどのような種を撒き花々を咲かしてくださるか、今後の活躍に期待し応援を送り続けたい。

短い人生の中で経験した、たった一度の講演会、まだ政界には入っておられなかった小宮山さんのご講演を笑顔で思い出していた。

娘も一緒に！である。